

Title	英國グランタムのニウトン祭
Author(s)	山本
Citation	天界 = The heavens (1927), 7(75): 258-259
Issue Date	1927-05-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/161115
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher



英國グランタムのニウトン祭

本誌第72號の第87頁に記した通り、去る3月18—20日の三日間、英國に於けるニウトンの故郷グランタム市に於いてニウトンの二百年祭が舉行されたのであるが、最近に入手したロンドン・タイムスを見るに、此の會合の模様や當日の寫眞等が載つてゐる。——それに據るに、サー・ダイソン、サー・トムソン其の他の碩學たちの紀念講演があつた場所はグランタム市のキングス學校（King's School）の舊校舍（Old School）であつて、此れが即ち、其の昔ニウトンの學んだ學校々舎なのである、

講演會では、先づ、學士院幹事ジーンズ博士が座長として一場の演説を試み、ニウトンが理學上の最大偉人であること、恐らく全世界の人類が生んだ最大智者であること、殊に自然界の眞理を知らんとする熱望と、精神力の幅と深み、問題のあらゆる方面を見る能力、多くの異説の中の最も正しいものを適確に採擇する力、及び、迅速に結果へ到着すること等に於いて、非常に優れてゐたことを述べ、尙、其の精神的素養の完全なりしことを著しき特徴として擧げた。

ジーンズ博士の後、サー・トムソン、サー・ダイソン、ラム博士、ハーデイ教授等がいろいろの立場からニウトンの業績を講演した。（此等の講演要旨は追つて本誌紙上に譯出する筈である）。

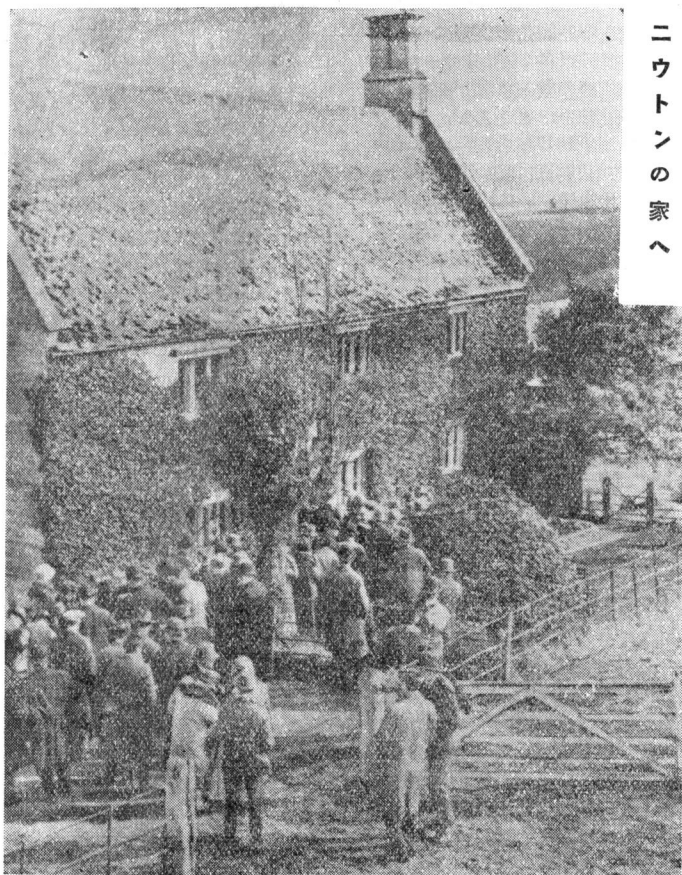
其の日の午後、グランタム市より數マイル南にあるウルストーブ村にあるニウトンの生れた家へ、來會者一同は集まつた。かの1666年、果實が枝から落ちるのを見てニウトンは引力の法則を發見したと傳へられる林檎の樹も此の家の庭にあつた。

記念晚餐會の席上、サー・トムソン教授は「ニウトンの思ひ出」と題して一場の演説をし、ニウトンの論敵であるライブニッツが、「數學上に於い

て、大昔しから其の當時までの間になされた發見の大部分はニュートンの效蹟である」と言つたところがあるを述べた。

3月20日記念祭の最終日には、バミングラム市の監督(Bishop)が、格蘭タムの教會堂に於いて記念説教をした。

今回の記念事業として、5000ポンドの奨學資金が募集せられ、之れはニュートンが學んだキングス學校の現今の生徒中優秀な者に與へられる筈である。(山本)



ニュートンの家へ

去る3月20日、英國に於いてニュートンの記念祭の日、約150名の學者たちがニュートンの誕生したウルストープの家を訪れた時の寫眞